

令和 5 年 6 月 27 日現在

機関番号：34503

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19K10984

研究課題名（和文）在日ネパール人/ベトナム人女性の労働とリプロダクティブヘルスの両立

研究課題名（英文）Coexistence of work and reproductive health among Nepalese and Vietnamese women in Japan

研究代表者

嶋澤 恭子（Shimazawa, Kyoko）

大手前大学・国際看護学部・教授

研究者番号：90381920

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、在日ベトナム人及びネパール人を中心とするアジア系女性外国人労働者のリプロダクティブヘルスに焦点を当てている。彼らの母子の健康行動と受療行動の実践を、労働環境や生活環境との関連から明らかにすることを目的とした。研究時期がCOVID-19感染流行時期と重なり、社会構造において正式な労働者として位置付けられにくい不安定な外国人女性労働者にとって、コロナ禍の状況がさらなるリプロダクティブヘルス行動が侵害される要因となった。具体的には彼らへの調査によって、Covid-19による経済的問題や医療情報アクセスの欠乏、医療受診の抑制、親族や同胞支援の困難があり、疾病予防行動の傾向がみられた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本の在留外国人について、特にアジア各国からの入国者数は多くその半数以上が女性である。特に2010年代に入り、妻子を呼び寄せて家族で在住する人々が顕著である。そして家族もまた、「家族滞在」の在留資格により就労している。ネパールの場合は8割、ベトナムの場合も5割が、家族滞在資格により、「資格外活動」として日本において就労しており、形式的には労働者として正面から受け入れたのではない人たちが多数派を占めていることになる。

彼らの日本における母子の健康行動と受療行動の実践を、労働環境や生活環境との関連から読み解くことで、在日外国人女性の労働とリプロダクティブヘルスの両立や疾病予防に寄与するものである。

研究成果の概要（英文）：This research focuses on the reproductive health of Asian female foreign workers, mainly Vietnamese and Nepalese living in Japan. The purpose of this study was to clarify their maternal and child health behaviors and treatment behaviors in relation to their working and living environments. The research period coincided with the COVID-19 epidemic, and for foreign female workers who were difficult to be positioned as formal workers in the social structure, the COVID-19 situation became a factor in further infringing reproductive health behavior. Specifically, a survey of them found that they had economic problems due to Covid-19, lack of access to medical information, restraints on medical consultations, difficulties in supporting relatives and siblings, and a tendency toward disease prevention behavior.

研究分野：助産学 看護学 文化人類学

キーワード：在日外国人 リプロダクティブヘルス

1. 研究開始当初の背景

日本における在留外国人数は年々増加している。全人口の約 2.24%が外国人である(在留外国人統計 2019)。特に、アジア各国から本邦への入国者数は著しく増加しており、そのうち、半数以上が女性である。著しい増加がみられるのが、ベトナム人とネパール人である。特に 2010 年代に入り、妻子を呼び寄せて家族で在住する人々が顕著である。そして家族もまた、「家族滞在」の在留資格により就労している。ネパールの場合は 8 割、ベトナムの場合も 5 割が、家族滞在資格により、「資格外活動」として日本において就労している。

他にも、就労が目的ではない在留資格で日本に滞在し働いている「資格外活動」では、特に、技能実習生(308,489 人、21.1%)や資格外活動の許可を取って働く留学生(298,461 人、20.4%)が、外国人労働者のかなりの割合を占めている(厚労省 2018)。日本人の配偶者などと合わせて、形式的には労働者として正面から受け入れたのではない人たちが、外国人労働者の多数派を占めていることになる。技能実習生や留学生の資格外活動(多くはアルバイト)は、非熟練労働の職種で就労することが可能であるばかりか、むしろそれが期待されている。いわゆる「資格外活動」のビザでは、入国管理局の許可を受けて週 28 時間以内の労働が可能となる。

このような外国人に対しては、労働者としての権利は十分に保障されないのに、労働力だけは期待されるという実態がある。

家族と共に暮らす外国人の増加に伴って顕在化している課題が、医療や教育、社会保障の問題である。特に、医療においては、医療機関による受入体制や言語の問題、健康保険制度の問題などの課題が顕在化し、行政や NPO が中心となって様々な改善策に取り組んでいる。「外国人患者受入れ医療機関認証制度(JMIP)」、医療通訳・医療コーディネーターの配置支援、資料の多言語化など、外国人受け入れの体制の整備は、急速に広まりつつある。

その一方で、在留外国人の母子保健は課題が山積している。外国人母子の死産率・乳児死亡率高率にあり(李 2018)、急患で訪れる外国人患者の過半数は女性で、産科、小児科を受診する。また、女性の多くが従事する「資格外労働」の場合、法定健康診断等の対象とはならず、事業所の健康保険の対象ともならず、ジェンダーによる脆弱性ゆえに健康を維持する社会的なしくみの枠外にある。新規居住者であるベトナム人やネパール人が増加した今、本邦で働く外国人女性の保健環境を理解した上で、総合的なアプローチをしていかなければならない。

本研究は、在日外国人女性労働者のリプロダクティブヘルスが侵害されている要因を、個人の嗜好性や選択に求めるのではなく、社会構造において正式な労働者として位置付けられずにいる、ジェンダーの脆弱性に基づく、国際的なリプロダクティブヘルス問題及び労働保健の問題として捉えようとする試みである。アジア女性のリプロダクティブヘルスが脆弱な理由の一つは、トランナショナルな状況にある女性たちの健康を保証する主体が欠如している点にある。彼女らは本国政府においては、外国へ出国している女性たちであり、滞在国においては、「外国人」であり、正規の労働者として位置付けられていない。労働を目的とした就労ビザをもつ「正規の」労働者とは異なり、女性たちの労働はあくまでも「資格外労働」であり、労働者としては非常に不安定な位置づけにある。彼女らは、本国の保険制度と滞在国日本の保健制度の隙間におかれてしまっているといっても過言ではない。このようなニッチな状況にある外国人女性に着目し、外国人女性を疾病のハイリスクグループから解放するために、労働との関連から疾病予防や保健活動・受療行動の実践を捉えた上で、リプロダクティブヘルスの向上に向けた実践研究を行うものである。

2. 研究の目的

近年著しい増加の見られる在日ベトナム人及びネパール人を中心とするアジア系女性外国人労働者のリプロダクティブヘルスに焦点を当て、母子の健康行動と受療行動の実践を、労働環境や生活環境との関連から明らかにすることを目的とした。

3. 研究の方法

まずは、ネパール・ベトナムにおける在外居住女性のリプロダクティブヘルスの把握および、日本国における在留外国人女性を対象とした保健政策について把握し検証することを目的として、文献調査とフィールドワークを行った。新型コロナウイルス感染症流行のため、ネパール・ベトナム、そして日本における保健セクターおよび関連支援機関及び任意団体などへの聞き取りの実施が遅れたが、関連文献や資料の精査およびオンラインでの聞き取りなどを取り入れて実施した。本国の保健制度と滞在国日本の保健制度との隙間に位置している現状を特にリプロダクティブヘルスに焦点を当てて整理した。

次に、20 代から 50 代の「中長期滞在者」として日本に在住しているベトナムおよびネパール国籍を持っており、かつ「資格外活動」として働いている女性を対象にして、半構造的インタビューを複数回にわたり実施した。主な内容は、自身のライフコース、特にリプロダクティブヘルスにかかわる事項、保健医療行動、現在の労働状況についてである。また日本語運用が困難な女

性には通訳者を介して実施した。本研究においては所属する大学の研究倫理審査の承認を受けて実施した。

また、新型コロナ禍で実施が遅れたが、最終年にはオーストラリアの移民政策、特にアジアからの女性移民政策やプログラムについて、現地関連団体や州行政および現地の移民女性（ベトナムおよびネパール出身）への聞き取りを中心としたフィールドワークを行った。

4. 研究成果

日本国における在留外国人女性を対象とした保健政策やサービスについて、特にリプロダクティブヘルスに関連する事項としては、「外国人の入院助産、養育医療、予防接種に関する政府見解」（2000）として議員立法により在留資格の有無にかかわらず適用可能としているが、実際のサービス提供現場や自治体によっては実施されていない場合があり、現実とのギャップは残されたままである。また、中長期滞在者には国民健康保険の加入対象となるが、正規労働者として雇用されていない場合や、「家族滞在」でパートナーが国民健康保険の場合など、加入対象であることを知らない、また仕組みを知らないままとなる事例があり、妊婦健診や出産の機会に初めて発覚する場合も少なくないとのことであった。

20代から50代の「中長期滞在者」として日本に在住しているベトナムおよびネパール国籍を持っており、かつ「資格外活動」でアルバイトやパートとして働いている女性を対象に20名の聞き取り調査（オンラインおよび対面）を複数回にわたり行った。現在データの分析中ではあるが、その過程で見えてきた状況をいかに列挙する。

新型コロナ禍における雇止めや解雇を受けたパートナーの影響を受けるものや、女性自身も時短営業や休業による影響を受けるなどの問題に直面し、それに伴う経済や生活状況の悪化が見られた。また労働や生活に関する相談の機会はもともと多くはなかったが、コロナ禍によってさらに悪化し、支援団体や日本や母国の同胞者たちとの情報交換が頼りとなっていた。

新型コロナ禍によって医療情報アクセスの混乱、出産育児期における母国からの家族支援を受けにくい、受診行動の抑制や受診拒否、保育所の活用困難などの状況がみられた。

医療行動としての受診や内服について、母国と日本との医療サービスや医療文化や価値観の違いによる困難とレジリエンスの状況が家族および知縁ネットワーク（SNSを含む）の活用を中心に彼らの生活実践の中で浮き彫りになった。

外国人移民政策の進んでいる豪州における難民・移民へのリプロダクティブヘルスプログラムの実際では、入国からの移民プログラムとともにヘルスチェックやリプロダクティブプログラムが整備されていた。当事者であるベトナムやネパールから移住した女性への聞き取りでは、そのライフコースや入国目的（留学、家族滞在、就労）によって様々ではあったが重国籍が認められているが、より良質な住民サービスや就労条件に影響する永住ビザ（Permanent Resident）

を得るための困難や方策の情報偏在があることが分かった。同胞コミュニティや同胞 Association（婦人会や〇〇人会）のネットワークの活用や、妊娠出産及び医療サービス情報の利用については言語の壁があるものの、家族や知人による通訳によって解決されていた。

以上のように、就労とリプロダクティブヘルス、そして医療行動との関係については、さまざまな課題が実態としてあり、新型コロナ禍によってさらに可視化されてきている。さらにデータの分析と整理を行い、成果発表への準備を進めているところである。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Tadashi Yamashita, Pham Nguyen Quy, Emi Nogami, Erina Seto-Suh, Chika Yamada, Saori Iwamoto, Kyoko Shimazawa, Kenji Kato	4. 巻 -
2. 論文標題 Symptoms of depression and anxiety among Vietnamese immigrants in Japan during the COVID-19 pandemic: a cross-sectional web-based study	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 medRxiv	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1101/2022.03.09.22271973	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 幅崎麻紀子、庄司一子	4. 巻 9
2. 論文標題 日本語指導が必要な生徒の高校卒業を支える要因：定時制高校の事例から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 共生教育学研究	6. 最初と最後の頁 39-52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 吉川恵理、田村摩耶、嶋澤恭子	4. 巻 24
2. 論文標題 在日外国人女性への分娩期の助産ケアとその実態	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 神戸市看護大学紀要	6. 最初と最後の頁 59-68
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 幅崎麻紀子	4. 巻 104-1
2. 論文標題 <書評>小浜正子著『一人っ子政策と中国社会』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 史林	6. 最初と最後の頁 263-269
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14989/shirin_104_1_263	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 平林かな子、嶋澤恭子
2. 発表標題 在留ネパール人女性の日本での出産経験
3. 学会等名 日本助産学会第36回学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 嶋澤恭子
2. 発表標題 在日ベトナム人女性の保健医療行動とライフコース：中高年層のリプロダクティブヘルスから
3. 学会等名 第35回日本助産学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 幅崎麻紀子
2. 発表標題 現代ネパールにおける「バーススペーシング」という問題
3. 学会等名 日本文化人類学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 幅崎麻紀子
2. 発表標題 外国人女子生徒の定時制高校への進学後の課題 就学継続支援に向けて
3. 学会等名 異文化間教育学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 幅崎麻紀子
2. 発表標題 Women's Choice within the Context of Fertility Decline: A Study of Reproductive Praxis in Contemporary Nepal
3. 学会等名 INDAS international symposium "Life and Death in Contemporary South Asia" (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 白井千晶、姚毅、洪賢秀、幅崎麻紀子、松尾瑞穂、嶋澤恭子、沢田佳世、田間泰子、松岡悦子、小浜正子、	4. 発行年 2022年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 247
3. 書名 アジアの出産とテクノロジー: リプロダクションの最前線	

1. 著者名 村松紀子、嶋澤恭子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 メディカ出版	5. 総ページ数 104
3. 書名 国際化で求められる知識とコミュニケーション術「ペリネイタルケア」vol.39	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	幅崎 麻紀子 (Habasaki Makiko) (00401430)	埼玉大学・研究機構・准教授 (12401)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------